

こんにちは！薬剤部・臨床薬剤部です！

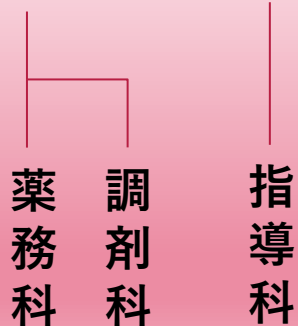
薬の効果や副作用の発現は人さまざまです。
薬物療法の安心感・安全性の向上のため、薬学的な知識を基に活動を行っています。



NEWS!

令和2年度より薬剤部は組織改編し、新たに**薬剤部・臨床薬剤部の2部制**となり、病棟業務の拡充が図られました。2部で分担・協力し、業務を行っています。

薬剤部 臨床薬剤部



<薬剤部 薬務科> 注射薬の管理

注射室では、注射箋に従い、注射薬の投薬状況の確認や払出しを行っています。処方された注射薬の相互作用、患者さんの状態、投薬量等を確認したうえで、各病棟へ払出しています。

処方された注射薬は電子カルテなどを用いて**投与量・投与方法・投与速度・配合変化**などの確認を行います。



レジメンの管理

当センターには多種の抗がん剤の取扱いがあり、使用量等の管理には細心の注意を払っています。

また、がん薬物療法の適正化等を目的とし、**レジメン**を作成しており、注射室にて、患者さんごとに適切なレジメンが選択されているか鑑査を行っています。

レジメンとは？

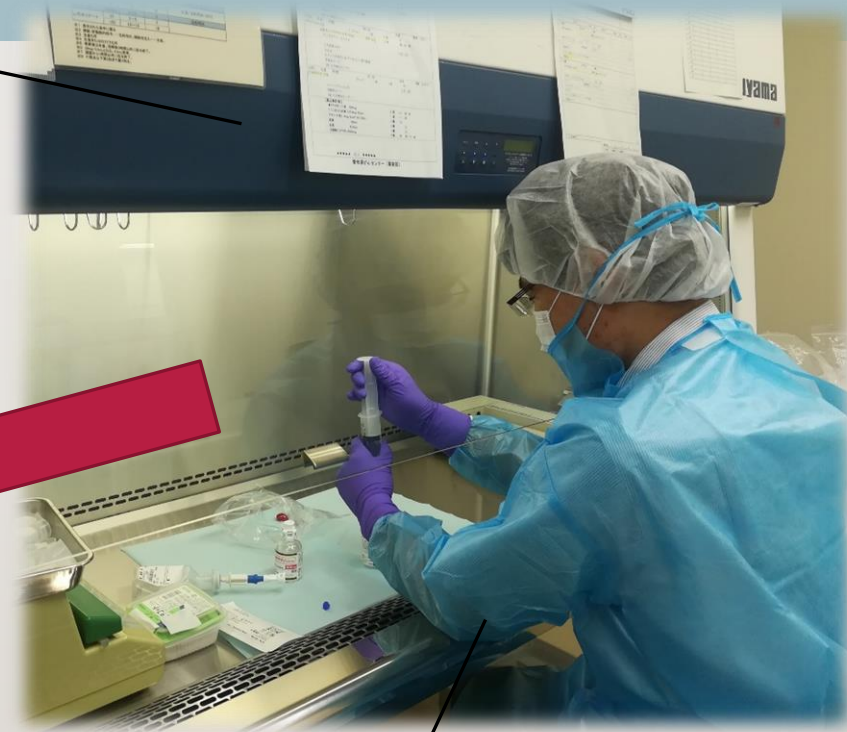
抗がん剤、輸液、支持療法薬（制吐剤など）の投与に関する時系列的な治療計画を指し、記載されたレジメンに基づき、治療を行っています。



抗がん剤の調製①

がん化学療法のための注射剤を**安全キャビネット**内で調製しています。抗がん剤はオーダーメイドです。調製する際に暴露・飛散防止のための対策を施しています。

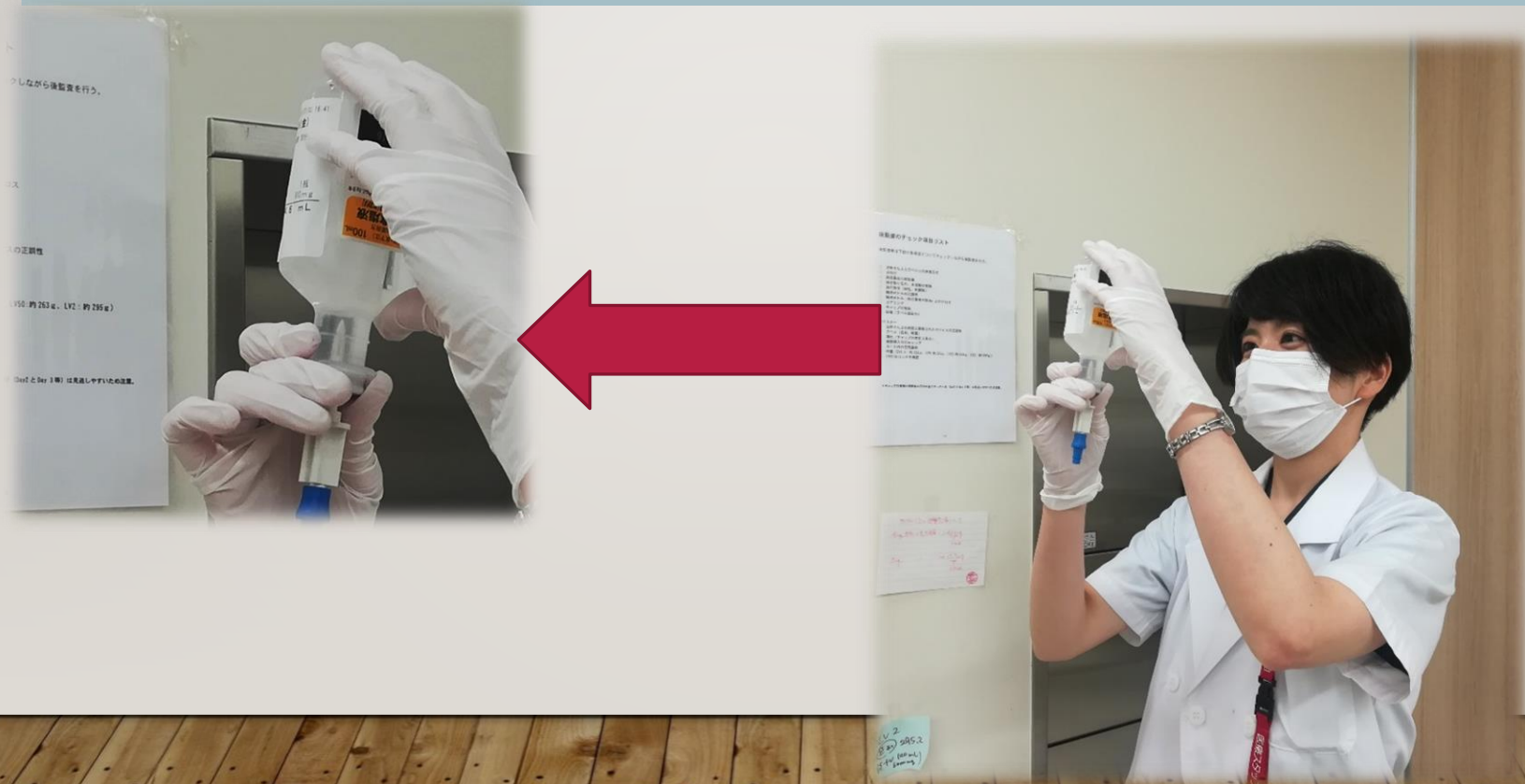
安全キャビネット
抗がん剤が空気中に
漏れることを防ぐ装置



抗がん剤調製の際はキャップ、ガウン、マスク、ゴーグル、手袋を着用して行っています

抗がん剤の調製②

調製された注射剤に溶解残りや異物の混入などが
ないか、目視で確認して、**化学療法センター**や**各病棟**へ
払い出します。



T P N調製及び院内製剤製造業務



注射室では、**中心静脈栄養**を行う患者さんに対し、**無菌条件下**で、**ミキシング**を行っています。

市場での入手が困難な薬品については、原料を購入し**院内製剤**を作成しています。



DI(ドラッグ・インフォメーション)業務

DI室では薬の最新情報の収集と提供に努めています。
薬の効果と副作用を評価し、**医師・看護師その他の医療従事者、そして患者様**に情報提供しています。

医療安全情報

[医薬品・医療機器に関連する医療安全対策](#)

医薬品や医療機器の医療事故防止のための様々な対策に関する情報や厚
対策に関連する通知等を掲載しています。

[PMDA医療安全情報](#)

これまでに収集されたヒヤリ・ハット事例や副作用・不具合報告の中から、同
事例若しくは添付文書改訂等を通知した事例などについて、PMDAが専門
事者に対して安全に使用するために注意すべき点等を図解等を用いてわか
り易く作成した「PMDA医療安全情報」を掲載しています。



医薬品情報の収集

院内へのアナウンス

薬に関する問い合わせ
への対応

麻薬管理業務

患者さんの治療に用いられる**医療用麻薬**は、不正な使用や盗難等がないよう、毎日、薬剤師が計数管理しています。また、麻薬帳簿の作成や保存、廃棄等も重要な業務です。

医療用麻薬とは？

がんによる痛みの緩和に用いられる医薬品で、麻薬及び向精神薬取締法により、医療用に使用が許可されている麻薬です。適正に投与量が管理されているので、薬物依存は起こりません。



麻薬の在庫確認

治験薬等管理業務

当センターでは開発中の薬の効果や安全性を調べるために、数多くの**治験（ちけん）**が行われています。

Q 治験とは？

薬の候補を用いて、国の承認を得るための成績を集める臨床試験を**治験**といいます。

病院で使われている薬やみなさんが普段使っている薬は、**治験を経て**、国の承認を得た上で製造・販売されています。



〈薬剤部 調剤科〉

調剤科では主に入院患者さん（一部外来患者さん）への内服・外用薬の調剤を行います。

処方箋が発行されると、薬剤師が薬の量や服用方法に問題がないか、相互作用がないか等を確認し、必要に応じ医師に問い合わせを行います。



がんの痛みなどに使う医療用麻薬も数多く取り扱っており、厳重に管理しています。
抗がん剤以外にも副作用対策のお薬（吐き気止めや口内炎治療薬）等も取り扱っています。

常用薬調査



主に初めて受診される方を対象に、他の病院から処方され服用している薬について、薬剤師がお薬手帳などを用いて確認を行います。

手術や処置、検査の内容によっては、

- ・ **抗血栓薬**
(血液を固まりにくくする薬)
- ・ **ビグアイド系薬剤**
(糖尿病治療薬の一種)

等のお薬の服用を中止する必要がある場合があります。



**手術や処置、検査を安全に受けていただくために
ご協力をお願いします。**

院外薬局からの疑義照会応需

当院では、外来での処方箋は原則、院外処方箋で保険薬局での調剤となります。

保険薬局から処方箋に関する問い合わせがあると、まずは薬剤部が窓口となり、必要に応じて処方医に問い合わせを行い、保険薬局からの疑義照会に対応します。

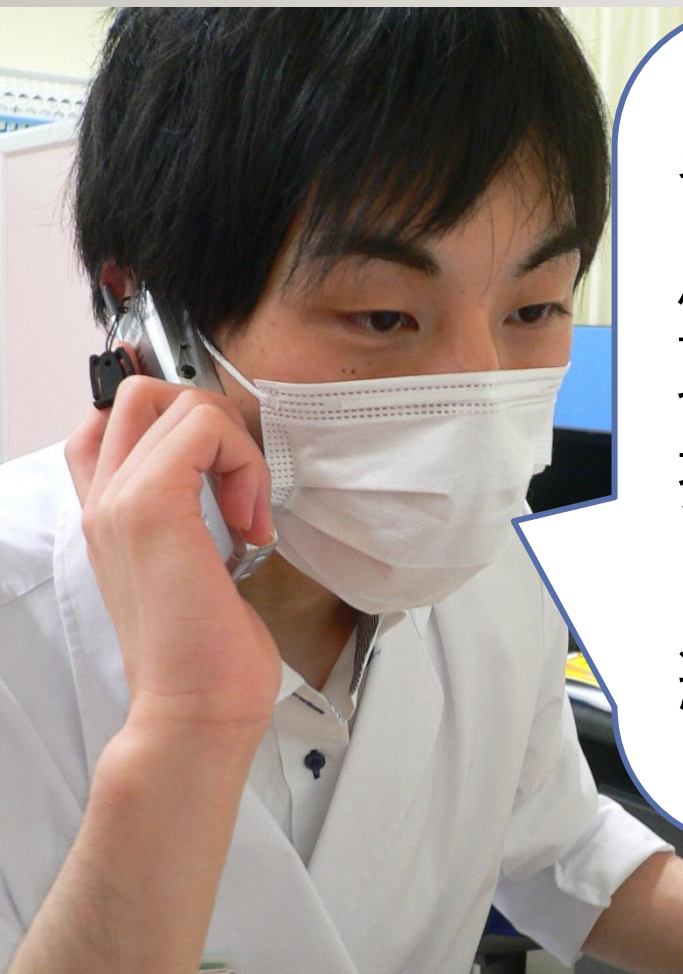


疑義照会とは・・・

- ◎用法用量は適切か
- ◎処方箋に不備はないか
- ◎副作用や薬物アレルギーはないか
- ◎薬の重複はないか
- ◎飲み合わせは問題ないか

等を薬剤師がチェックすること。

<臨床薬剤部 指導科>




各病棟に病棟薬剤師として配属され、医師・看護師など多職種と連携し、チーム医療の推進を図っています。
これから、取り組みの内容を紹介します。

持参薬の確認

入院の際に現在**使用している薬**や**アレルギー歴**などを確認しています。

薬剤の相互作用や手術前の中止薬などを確認し、内容をカルテに記載して、医師や看護師とも**情報共有**を図っています。



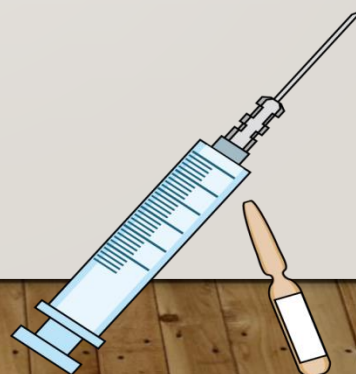
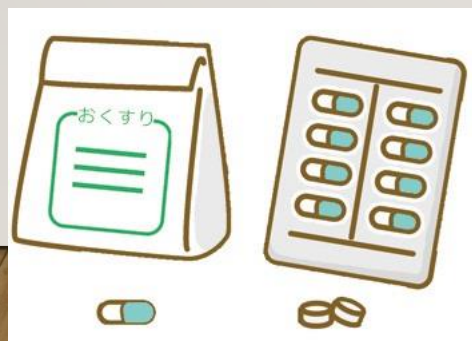
入院された患者さん一人ひとりと面会をして、今飲んでいるお薬をどのように使っているか聞き取りをさせていただきます。

医薬品の投薬・注射状況の把握

入院患者さんの飲み薬（内服薬）や注射薬の状況確認をしています。

主な確認内容

薬剤の重複がないか
処方された薬剤同士に相互作用がないか
不適切な処方がないか（用法や用量）など



医療スタッフへの助言や相談応需

病棟では医師や看護師などの医療スタッフから薬に関する相談を受け、薬学的視点から助言をしています。

主な相談内容

薬の一包化への対応
代わりとなる薬剤（代替薬）の提案
薬剤の相互作用や使用量の確認
など



副作用モニタリング

抗がん剤を用いた治療を行うと様々な副作用を伴う場合があります。
副作用の発現状況の確認を行うとともに、必要があれば医師へ情報を提供し、処方提案をしています。

副作用の症状と思った時や
「ふだんと違う、
おかしいかな？」
と思った時はすぐに医療スタッフにお知らせください。



医薬品管理業務

病棟の救急カートと定数薬の数量、使用期限や医療用麻薬・向精神薬の管理をしています。



流量・投与量計算

特に安全管理が必要な薬剤の使用にあたっては、薬剤の投与速度や投与量の計算等の確認をしています。
例) カリウム製剤、医療用麻薬など



病棟カンファレンス

多職種で個々の患者さんに関する**情報共有**を行ったり、困っていることなどを話し合っています。また、治療方針の決定にも関わったり、病棟で薬剤に関する勉強会を行うなどチーム医療に**貢献**しています。



薬剤管理指導(服薬指導)業務

薬の効果や正しい使い方、主な副作用などの説明を行っています。また薬が投与された後も、副作用や飲み合わせの確認を行っています。



患者さんへの薬の説明